



サロンあべの

□ 都会における癒し—音と香りのハーモニー

〈サロン・あべの〉2月の出会い

平成18年2月18日(土)〈サロン・あべの〉2月の出会いはサロン

よいとこ、こんなところ「都会

における癒し—音と香りのハーモニー」というテーマで、「サロ

ン北」の代表・竹岡太一さんのお話と二胡演奏団「竹之子」の生演奏を楽しみました。

・香りの癒し

・これまでの活動内容

他のサロンにない、都会のオアシス「音楽と香りの癒し」を活動のテーマにして、平成17年7

月16日(土)に第1回のサロンを開催、「サロン北」はスタートした。日頃地域で活動している障害者福祉作業センター「たけのこ」を母体に「サロン北」がある。

「サロン北」の活動の際には、その季節やテーマに合わせて香りを選んでいく。香りの効果は、気分をリラックスさせたり、身体や肌にいいといわれている。今日の香りは、インド産のジャスミン。アロマポットやアロマミストティフューザーで蒸気をきめの細かい霧状にして空気中に漂い、室内全体に甘く、優雅なジャスミンのフローラルな香りが広がって、心を穏やかにしてくれていた。

この「たけのこ」をみなさんに、広く知ってもらい根付かせようという思いがあるのも事実。最初の開催は、会場探しや、なにかや準備が大変だった。ボランティアで、コンサート活動をしているオーケストラ「響(ゆら)」の方々、スタッフのみなさんの協力で開催することができた。その様子をプロジェクター映

サロンよいとこ、 こんなとこ

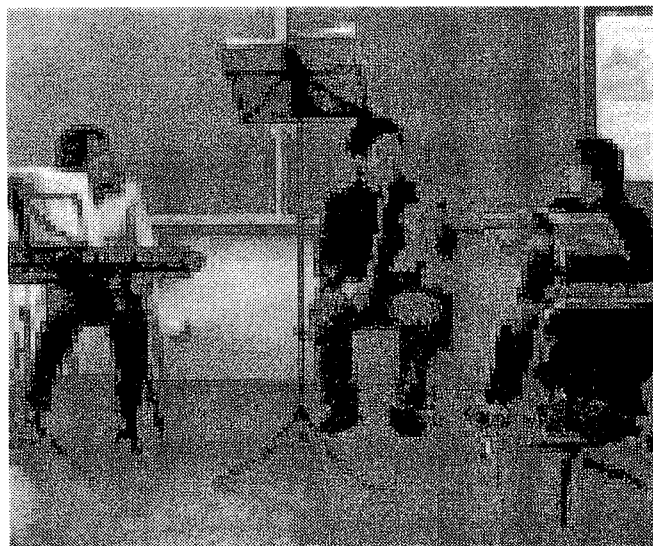
像で見せていただいた。

第1回目は、赤とんぼ、第2回はクラリネットとフルートの演奏、第3回は、オカリナコンサート、第4回は、版画教室で年賀状

作り、第5回は、「オーケストラ響」と合同でクリスマスコンサート、オーケストラ40人、観客60人で、会場を借りての大規模なものとなった。

内容は、ミニコ

ンサートに加え、いろいろな方のお話も聞き、アロマで癒される、という贅沢な3部構成の時もあれば、手品や小話、からくり人形を披露していただく時もあり、バラエティーに富んでいる。



二胡演奏団「竹之子」の生演奏右から
ハーマニカ 仲川一昭さん
バイオリン 仲川登司光さん
シンセサイザー 山根かおりさん

癒し」があり、音楽をもちいてコ

ミュニケーションを広げていくのに活用される。その一つとして参加型の音楽療法を体験した。それは、「埴生の宿」を5つの楽器で聞いて、各自がそれぞれどう感じたか、感想を書き込んだ。5つの楽器と、質問は次のとおり。

- 1 ハーマニカ
- 2 バイオリン
- 3 オカリナ
- 4 ピアノ
- 5 シンセサイザー

Q1 1番気に入ったのは、どの楽器か。その理由は？

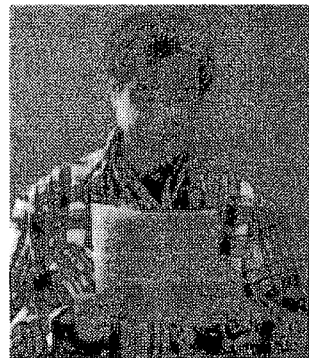
Q2 1番面白いと感じたのは、どの楽器か。その理由は？

Q3 1番哀しいと感じたのは、どの楽器か。その理由は？

音楽には「受動的癒し」と「能動的癒し」と

参加者がそれぞれ選んだ楽器

二胡演奏団「竹之子」のメン



「サロン北」代表・竹岡太一さん

とその理由を何人かに意見を聞いた。答えが同じ人もいれば、違う人もいて、楽器は同じでも、その時の心境によって感じ方も異なってくるという。

これは、ただ聞くだけの「受動的なもの」から、同じ場所で「能動的なもの」として積極的に参加して、相手との共感を持ったための体験。

・ミニコンサート

二胡演奏団「竹之子」のメン

バーによるミニコンサートが行われた。

「君の名は」、「おぼろ月夜」、

「四季の歌」、「ブルーレ」、「カントリーロード」、「故郷」など。参加者は、生演奏を耳を澄まして聞き、歌詞を口ずさんで楽しんだ。

参加者に聴覚障害の方もおられたが、手話グループの方との参加で手話の動きも楽しい伴奏となった。

休憩の後、参加者に感想などを聞きました。

○ (サロン・あべの) 2月のテーマが音楽と聞き、それに誘われて来た。

○ 弦楽器が好きなので、バイオリンが聞けて良かった。

○ 自分も楽器を演奏しているので、

テーマに惹かれて、初参加したが、知り合いがいて驚いた。

○

アロマで美しくなれると聴いた。ジャスミンの香りで、これ以上美しくなったらどうしようか・・・

○

音楽は歌うのも聞くのも好き。特に、南米のフォルクローレが

明るく好きで癒される。

○ 参加者の感想を聞いた後、ア

ンコールの声が大きくなって再度演奏していただきました。「アメージンググレース」、「故郷」、「赤とんぼ」、「古時計」、「メヌエツト」、「エーデルワイス」など。

ト、「エーデルワイス」など。

「サロン北」のスタッフは、音

楽仲間のつながりで友人を紹介されたりして、誰が抜けても誰かが助けてくれ、みんなが協力し合って続けている。本当に「音楽と香りによる癒し」で心身と

○ 2月の出会いでした。

（見出し）中西利香・筆
（参加者27名 山村貴司）

（参加者27名 山村貴司）

（参加者27名 山村貴司）

お知らせ

<サロン・あべの> 4月の出会い

日時…4月15日(土) 午後1時～4時

内容…地域福祉計画と阿倍野区アクションプラン

お客さま…黒田隆之さん

(桃山学院大学社会学部専任講師 障害者福祉論担当、大阪市地域福祉計画技術支援部会委員、阿倍野区地域福祉行動計画策定委員)

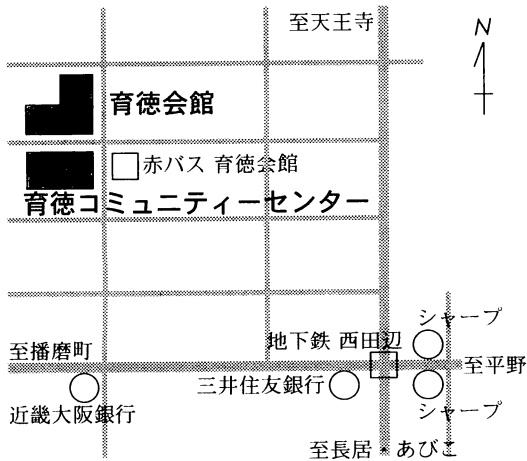
場所…育徳コミュニティーセンター2階 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL. 06-6621-1901

最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」
赤バス「育徳会館」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



サロンと私

「地域の茶の間」という活動が10年ほど前から新潟県で広がり、千か所近くもできていくそうです。小学生から子育て中の若いお母さん、お年寄りなどいろいろな人が立ち寄り、お茶を飲みながら話をしたり、ゲームや体操を楽しんだり、なかには昼寝をしている人も・・・。茶の間を開いているのも社協やJAなどの団体だったり、有志の個人だったりしますし、場所も地域の集会所、学校の空き教室、商店街の空店舗などさまざまなようです。「地域福祉」と言うとなにやら難しいですが、要はだれでも集える茶の間があって、「お互いさま」であたりまえに支えあえる関係のある地域をつくっていくことなのでしょう。

この話を聞いて「すばらしいなあ」と思っても、でもふと考えると（サロン・あべの）は二十年も前から、これと同じようなことをしてきたんだなあ、そして、何百か所とは言わないけれど、だんだん広がっている。運営委員に加えていただき、その中にいると気づきにくいですが、すてきな活動に参加させていただいていることにあらためて感謝しました。たまたま参加した私に声をかけてくれた富田さん、年に数回しか参加できなくてもあたたかく迎えてくれるみなさんのおかげです。「地域の茶の間」には、「あの人、だれ」という目で見ないことや、お世話をする人、される人という役割をつくらないことなどのルールがあるそうですが、サロンでは言わなくてもそんな空気ができていることが心地よいです。

「サロン」を辞書で引くと「応接間」と書いてありましたが、私には茶の間のようには感じられません。これからは普段着で参加させてください。そして、いろいろなサロンができていくことも期待しています。

（原田 仁）

あのころを思い出します

汽車の童謡♪絵はがき、すばらしくて、なつかしい絵です。

息子が幼いころ、大和路線を何日間か汽車が走ったことがあり、子供に見せたことがありました。恐がって、後ずさりしていたことを思い出します。

黒い大きな物体が煙をはいて走ってくるのが、とても恐かったと、大きくなって、言っていました。あのころの、子育てに一生懸命だったのがなつかしく、また楽しかったと思います。

（照井邦子）



赤松 昭

「谷間」に

「ごだわり」続けて

22

「若者と家族の会の歩み(その3)」

定員5百名余の会場に多くの方が詰め掛きました。障害当事者や家族だけでなく、看護職の方がたくさん来ていたようでした。それほど、講師の紙屋克子さんの意識障害患者のケアに関する取り組みの評価は高かったのです。講演ではスライドやビデオを使いながら、意識障害のある方のケアに関するポイントと、それまでの経験を織り交ぜながら、大変分りやすく話をしていただきました。なかでも、自らのケースとして話してくれた次のケースは非常に印象的でした。

交通事故で意識不明のまま搬送されてきた男性。緊急手術の後も意識を回復しない。ところが、その手が度々看護婦の胸元に伸びる。看護婦らは「意識はなくても、男性だからそういう気持ちがあるんだ」と、まことしやかに話をしていった。ところが、ある看護婦がその手は胸ポケットのペンを取ろうとしていることに気付く。急いで手渡ししたメモ帳に男性が乱れた字で書いた言葉は「俺どうしてここにいる?」。事故の衝撃で記憶がなくなり、理由も分からないままその男性は病院のベッドで寝ていたのだ。そして、言葉が話せないために、意識不明患者として扱われていた。何とか意思を文字で表そうとして、看護婦さんの胸ポケットのペンを手にとろうとしていたのに、スタッフはそのことに気付かなかったのだ。

これは紙屋さんが自戒を込めて話をしたケースです。意識障害患者のケアに熱心な積極的な病院でさえこういうことがあったのです。ましてや、積極的な治療、ケアを一切しないその他大部分の病院の実態とは一体どんなものだったのか? 話を聞いていた会のメンバーは自らの体験からそうした実態を肌

身で知っていました。会のメンバーは紙屋先生の話に自らの体験を重ねながら、こうした実態の改善へと気持ちを新たにしました。

紙屋さんの後も様々の分野から多くの方に講演に来ていただき、毎年秋の講演会も昨年で10回目を数えました。こうした講演会活動は脳損傷者への理解を深めていただくことが第一目的なのですが、それ以外に大きな行事をこなすことで会のメンバーが成長することも大きな効用です。しかしこうして得た力は、講演会の企画・開催にとどまらず、さらには、その後の対行政交渉へとつながっていくのでした。(続く)

ありがとうございます。

カンパ、お菓子・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。ございました。

カスターネット、神谷君江、澤田妙子、田辺サカエ、高浜吉増、仲田孝史、中田邦子、野村嘉寿子、その他の方々。(敬称略)

26



邦子、 ..ん歳の手習い。

視覚障害者学生の情報保障

卒業・入学シーズンを迎え、私たちの研究科も4月から多くの新入生が入って来られます。その中には、看護師の方や難病の会で活動されているような人生経験豊かな社会人学生も多いということです。また、他大学から視覚障害者の方も1名入学されます。現在、研究科には青木さんという男性の視覚障害者の方が1名おられます。

青木さんはメディア教育開発センターの共同利用研究員でもあり、大学における視覚障

害者の情報保障について研究しています。私

たちの研究科の中で、メーリング・リスト(ML)の管理をしてくれています。MLをコンピュータ・ウィルスから守るために大学のメディア・センターと連絡をとって対策を考えて、的確な処置をとったり、MLが円滑に機能するようにみんなに適切なアドヴァイスをしてくれています。青木さんによれば、本や活字の印刷物はただの紙でしかないが、コンピュータなどによるデータがあれば、視覚障害者も読むことができるということです。そして、それらのデータは視覚障害者への情報や学習権の保障にもつながるということ

です。私の夫は、障害者の大学の受け入れについて熱心で、多くの障害者が大学で勉強することを望んでいました。障害者の大学への受け入れでは、先生方は視覚障害者学生の教育について最も不安に感じられていました。夫は、現在、障害学の研究で活躍されている倉本智明さん(当時大学院生)に教えてもらいながら、視覚障害者のための機器を使うことによって、先生方の不安を解消できるということとを説明していましたが、先生方への説得を

ありがとう。20年



<サロン・あべの>は20年になります。

含め、機械音痴の夫はそれらの機器の理解にも苦労していたことを覚えています。夫が1987年に留学していたアメリカのバークレール大学では、障害者学生プログラムの中に、視覚障害者学生のためのプログラムがあり、専門家が学習のためのアドヴァイスを行っていました。日本の大学では、そのようなプログラムが普及していないので、障害当事者がしっかりしていて、青木さんの場合のように、一番の専門家であるといえます。

青木さんは「見える人生と見えない人生を同時に体験できないのだから、比べようもな

いが、見えないでいても不便でない社会になることの方が幸せかもしれないし、見えないことをネガティブにとらえて、今以上に見えないようになる治療に一生を捧げるよりも見えない人生を楽しむ方が幸せであるかもしれない(『福祉のひろば』2005年9月号)と語っているように、前向きな人生を送っていらつしやいます。今年1月の修士論文提出日には青木さんは午前中に論文も早々と提出し、提出期限時間まで悪戦苦闘している仲間の手伝いまでしていました。その日も、いつもと変わらず、朝食を作り、洗濯までしてきたということですが、レポートをはじめ、何もかも締め切り時間間の提出の私にとって、生活管理ができている若い青木さんには、教えられることばかりです。

今年、入学される視覚障害者の方は、大学院での学習に向け、ご自分で情報を集めたり、準備されていますが、視覚障害者向けのコンピュータソフトがいいものになると高額であったり、またそれだけで完璧であるともいえず、やはりボランティアを含め、周りの者の理解と協力が必要だということです。

(定藤邦子)

春まだ浅きある日、私は小学校同級生のA君と久しぶりに出会った。彼も私と同じ寺の息子なので気が合うのか半世紀を過ぎた今でも付き合っている。

その日も2人は時間のたつのも忘れて四方山話に花を咲かせていた。そんな中でA君はこんな話をしてくれた。

1カ月ぐらい前に娘さんが病気で入院されていたそう。最初はどうなることかと心配していたが、手術後の経過も良好で快方に向かっていた。手術をして1週間程すると娘さんは付き添っておられたお母さんに起こしてもらってベッドの上に座っていた。するとコツコツ・・・と複数の靴の音がしたかと思うまもなく、黒のネクタイに黒のスーツ姿の3人の男性が

病室(個室)に入ってきた。

その3人は誰が見ても葬式屋の者だということが分かり、お母さんは思わず「うちの子はまだ生きてますねん」と叫ぶようにして言われたそう。でも娘さんがたまたまその中の1人の男性を知っていたのでお見舞いに来てくれたことが分かったという。3人の男性は某葬儀社の人でA君とは仕事の関係で親しくしているそう。

A君はこの話をしたあと「今やから笑い話ですむけど、その時妻は

必死で『うちの子は生きてますねん』と言ったそうや」と苦笑いをしていた。私もこの話を聞いた時はプツと吹き出しそうになったが、すぐ「失礼だ!」と思い、グツと笑いをこらえた。

晴れのち晴れ 90

笑うに笑えない話

稲垣 恵雄



7年ぶりのサロン

3月18日の「出会い」でお話させていただくことになりました。まだ何をお話したらいいのかわからないので、その予行演習として今回は、このコラムを書かせていただきます。

サロンの20年間の歩みは、私が管理してきますホームページで見ることができません。それによると私は1987年4月、いまから19年前に「お・か・しを囲んで」という名前のついた「出会い」でお話しています。



サロン紙を読むと、そこではボランティア活動としてのサロンのあり方について私の思いを語ったようです。

2度目は、それから5年後の1992年4月に「久しぶりに岡さんと」という出会いでした。「知らされない愛について」に書いたエッセイの話や、そのころの私のことについて話したようです。

3度目は1996年4月で「サロン・あべの10周年記念：サロン10年目の活動に思うこと」というタイトルで話して

います。サロン紙によると、オーバーヘッドプロジェクトを使って、まるで大学の授業のように進めたようですね。サロンの20周年には、サロンはどうなっているか予想を書いてもらったようですが、その記録は残っているのでしょうか。サロン紙によると、サロンがインターネット

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

を利用していろいろだろうとありますが、これは当たったようです。

4度目は、1999年4月で「仲間による癒し」というテーマでした。そのときは「癒し」という日本語にともなうイメージなどをくどくどとお話し、お話のための準備をかなりしたにもかかわらず（あるいは、あまりに準備をしすぎて一方的な感じになってしまったので）あまり好評では無かったという印象が残っています。

そして今回が5回目、前回から7年の空白があります。サロンから5回もお招きにあ

ずかっているのは私だけだと思います。

4回目の失敗(?)の経験から、今回は特に準備をしないで、参加者のかたと対話するような形で進めていけたらと思います。

しかし、それだけだと話のネタが尽きてしまうかもしれませんので、「お土産」を一つ準備するつもりでいます。それは自家製のエッセイ集です。

「ほんのすこしの神に近い部分」を出したあと、つまり1994年から前号まで135篇のエッセイをサロン紙に出させていただきました。そのなかからいくつかを選び、一つにまとめてみようと思います。

「知らされない愛について」が25篇、「ほんのすこしの神に近い部分」が24篇を含んでいましたので、それくらいの数を選ぶことができましたらと思います。

振り返ってみれば、残念ながら10年前のほうが現在よりも、いい文章を書いていたような気がします。20周年にむけて新しいエッセイ集を出しましょうと言ってくださっていた石田さんのご好意にきちんと応えられなかったのは、こういう事情があったからだと思います。

(知)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第236号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第236号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセイ集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳DJ)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後の※印はディジー録音。

美智子のこんな話

岸田美智子

実施以前の障害者自立支援法から見えて来たものは！？

昨年、10月に国会で可決された障害者自立支援法は、あと約1カ月後の4月から、まず定率負担（1割負担）がスタートします。

私の場合、24時間介助が必要なのですが、「自立生活センター・まいど」に月曜日から金曜日までの週5日は勤務しているの、日中は重度障害者雇用促進制度の中のアテンダント雇用を使って、何とか工夫してやっています。それ以外の時間帯は支援費制度の長時間ケースとして申請していますが、それでも時間数が足りません。

このような私の場合、障害者基礎年金1級なので収入は年間80万円以上となり、4月から始まる障害者自立支援法では、4月以降まったく同じ生活をして毎月24600円を払っていかなくてはなりません。その上に補装

具の給付制度で、車いすの修理をしたり新しく作ったりした場合、今までは基準範囲内なら負担金はなかったのですが、この自立支援法では、また最高で24600円を負担しなければなりません。更に10月からは、障害程度区分で認定され、今の介助時間数が大幅に減ってしまう可能性があります。

このようなふんだりけつたりの障害者自立支援法で、私達障害者から徴収された莫大なお金は何に使われていくのでしょうか。

この障害者自立支援法自体も問題だらけですが、このお金の行方もしつかり見届けていくべきだと思いますし、国はその使い方を私達障害者に解りやすく説明すべきだと思います。

今、話題になっているライブドア問題では、マネーゲームと称して何十億単位のお金 が動いてしまう日本経済ですし、そしてまた、東横インの社長の不正改造問題などから出てきた障害者差別の実態は、障害者自立支援法が出てきた厚生労働省の実態と妙に共通しているのではと実感してしまうのは私だけでしょうか？！

今度の障害者自立支援法の改革のポイントの一つである作業所やデイサービスのあり方を変え、就労支援に力を入れるということを取っても、枠組みを変えて補助金を減らしただけで何の対策にもなっていません。もし、本当に就労支援に力を入れるのであれば、労働省ともっと連携を取って就職した後のフォロー対策のジョブコーチ制度の充実や通勤にも使える介助保障は最低限考えて欲しいものです。

障害者の多くがもつと働きたいという思いは持っているのですから。このように今回の自立支援法は問題だらけですが、その枠に囚われず大きなお金の流れにも注目していくべきではないでしょうか？

そして、もちろんお金万能主義の社会のあり方に問題があるのは当然ですが。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MY・D.O.（まいど）

〒558-0002

大阪市住吉区長居西1-9-12キミハウス1階

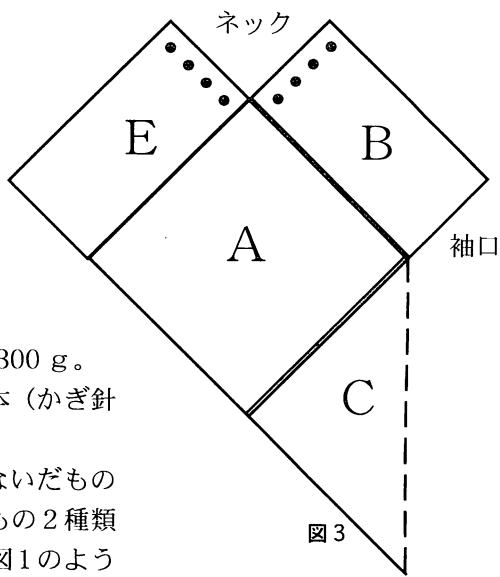
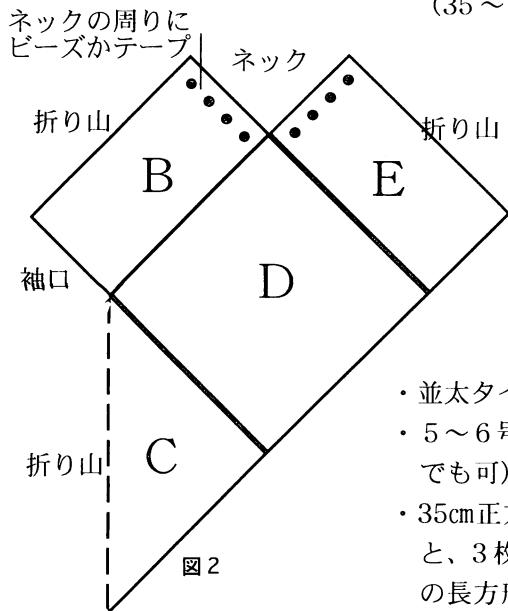
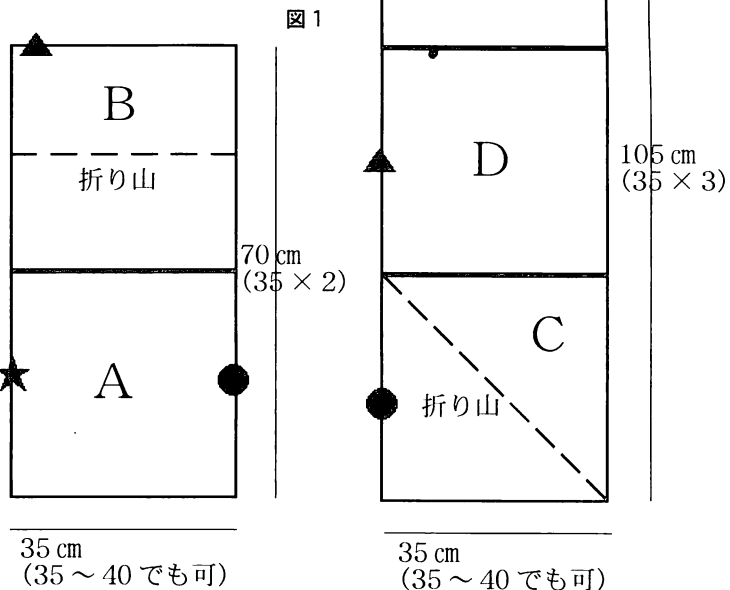
TEL 06-66609-3133

FAX 06-66609-3210

Eメール cl-mydo@jasmine.ocn.ne.jp



今回はお好きな色の糸で、簡単で楽しいベスト編みの紹介です。ビーズなど素材の工夫次第でパーティーにも。



- ・並太タイプの糸約300g。
- ・5~6号の棒針2本(かぎ針でも可)
- ・35cm正方形を2枚つないだものと、3枚つないだもの2種類の長方形を作り、図1のように●と● ▲と▲ ★と★をそれぞれとじます。

図2、図3のどちらが前身頃でも後ろ身頃でも可

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



一問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



SALOON

関西ニューズ

4月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りでですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」4月の出会い

日時：4月16日(日)午後1時30分～4時
内容：知的障害者が輝く時
-幸せの物差しとは何か！-

ゲスト：西村マコト氏
(知的障害者通所施設『マンボウ』所長)

会費：なし
場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」4月の出会い

日時：未定
内容：未定
場所：未定
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎06-6494-0635
中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」4月の出会い

日時：4月8日(土)午後1時30分～4時
内容：走っちゃいました。ホノルルマラソン
パネラー：亀岡直樹氏(生野区社協 職員)
会費：なし
場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■「サロン・にし」4月の出会い

日時：4月8日(土)午後2時～4時
内容：車いす利用者について学ぼう！

場所：西区在宅サービスセンター第一会議室
大阪市西区新町4-5-14
☎06-6539-8075

会費：なし
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》4月の出会い

日時：4月9日(日)時間未定
内容：未定
場所：未定
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」4月の出会い

日時：4月2日(日)午後1時30分～4時
内容：笑って、泣いて、感謝と感動をありがとうの10年間
-サロンつるみの10年間を振り返って-
パネラー：脇坂博史さん、窪田新一さん、池田美人さん
会費：なし
場所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
奥井 ☎06-6913-7070

■「サロン北」4月の出会い

日時：4月15日(土)
午後2時～3時30分(開場1時30分)
内容：おもしろ楽器「バリオン(電子メロディー楽器)」-演奏会&ティータイム-
参加費：無料
場所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
大阪市北区本庄東2-6-11宝来堂ビル1階
問い合わせ先：障害者福祉作業センター
「たけのこ」内 ☎06-6372-8074

■「サロンいたみ」4月の出会い

日時：4月22日(土)午後1時～3時
集合場所と時間=荒牧郵便局、午後1時
内容：伸幸苑のみなさんとお花畑散策を楽しみませんか。車いすの介助もお願いします。
場所：荒牧花畑周辺
会費：なし
問い合わせ先：「すみれ会」
安藤 ☎072-784-1718

<サロン・あべの>VOL.237 発行：平成18(2006)年3月18日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)